

札幌市職員採用セミナー (テーマ：スポーツ)

スポーツ元気都市さっぽろ
—スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる—

目次

I 部

札幌市のスポーツ行政について

II 部

スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

III 部

スポーツの力で「世界」へつながる

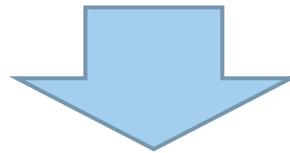
IV 部

冬季オリンピック・パラリンピック招致へ

「スポーツ」とは

「スポーツ基本法」では、「スポーツ」は次のように定義されています。

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、
自律心その他の精神の涵養等のために
個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動



「札幌市スポーツ推進計画」では、「スポーツ基本法」を踏まえて、次のように定義しています。

競技のようなルールに則り他者と競い合うものだけではなく、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行われるものであり、健康づくりのための散歩やジョギングなどの軽い運動、また身体を動かすレクリエーション活動なども含むもの

札幌市スポーツ推進計画とは

札幌市では、市民のスポーツへの関わり方の広がりなどを背景に、平成15年(2003年)3月に「札幌市スポーツ振興計画」を策定し、平成26年(2014年)2月に「札幌市スポーツ推進計画」を策定しました。

基本理念

スポーツ元気都市さっぽろ

-スポーツの力でさっぽろの「未来」をつくる-

3つの目標

- ① スポーツの力で「市民」が かがやく
- ② スポーツの力で「さっぽろ」をかえる
- ③ スポーツの力で「世界」へ つながる

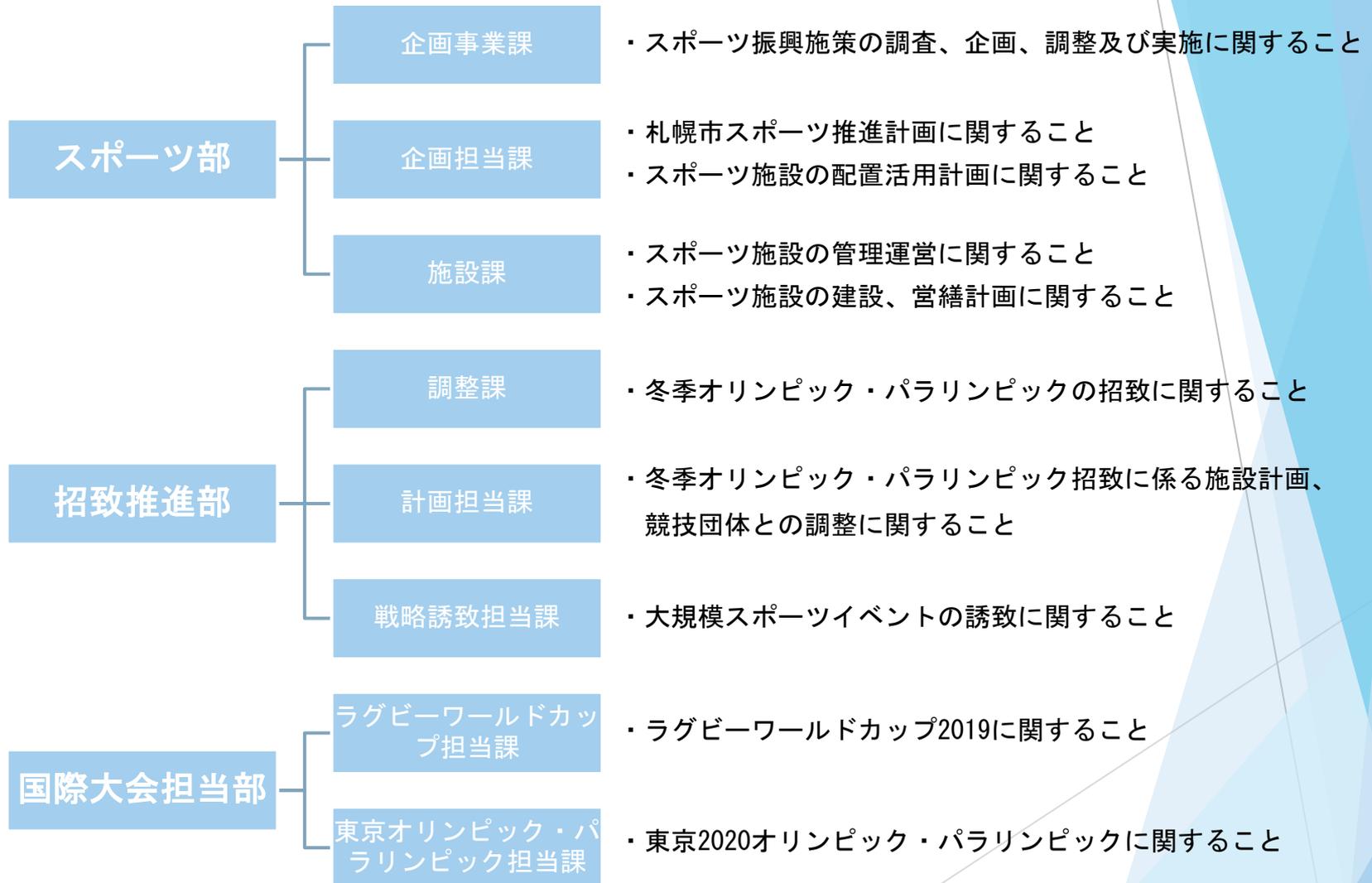
計画期間

平成25年度(2013年度)から令和4年度(2022年度)まで

| 成果指標 | | 基準値 | 現状値 | 目標値 |
|-----------------------------------|------------------|--------|----------|----------|
| | | 平成24年度 | 平成29年度 | 令和4年度 |
| ①スポーツ 実施率 | 20歳以上・週1回以上 | 41.2% | 56.4% | 65.0% |
| | 障がい者・20歳以上・週1回以上 | — | 43.7% | 50.0% |
| ②ウインタースポーツ実施率(18~49歳・年1回以上) | | — | 20.1% | 25.0% |
| ③直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上) | | — | 43.6% | 50.0% |
| ④ウインタースポーツ目的の来札外国人観光客数 (1月~3月) | | — | 175,000人 | 250,000人 |

スポーツ局機構図

※令和2年3月時点



スポーツ部所管のスポーツ施設

① 屋内施設（25施設）

体育施設（12施設）、屋内競技場（1施設）、スケートリンク（3施設）、カーリング場（1施設）、温水プール（8施設）



▲ 北ガスアリーナ札幌46
（中央体育館）

〔写真撮影 佐々木 育弥〕



▲ どうぎんカーリングスタジアム

スポーツ部所管のスポーツ施設

② 屋外施設（23施設）

野球場（3施設）、庭球場（6施設）、その他の夏季スポーツ用施設（8施設）、冬季スポーツ関連施設（6施設）

③ スポーツ交流施設（1施設）

④ 藤野野外スポーツ交流施設（1施設）

⑤ 札幌ドーム（1施設）



▲ 札幌ドーム



▲ 大倉山ジャンプ競技場

II部 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

札幌市は、市民が地域で「する」「みる」「ささえる」といった様々な形でスポーツに関わり、心身の健康増進、生きがいに満ちた生き方を目指します。

また、スポーツの力によって、社会の課題を解決したり、まちを活性化させたりすることで、より活力ある「さっぽろ」を目指します。

■ 方針

- ・ ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進
- ・ スポーツを通じた健康増進
- ・ 様々な形・場でのスポーツ参加の促進
- ・ スポーツを通じた共生社会の実現
- ・ スポーツを通じた経済・地域活性化

ウィンタースポーツの振興

雪国である札幌市にとって、厳しい冬の生活環境の中でも、雪を楽しむウィンタースポーツはまちににぎわいを与える大切な文化の一つといえます。

ウィンタースポーツの振興を重点な施策と位置づけ、子どもの頃からウィンタースポーツに親しめる機会を増やしていきます。また、札幌市ならではのライフスタイルとしてウィンタースポーツの魅力を体感し、その魅力を発信する人々を増やすことで、「さっぽろ」の都市ブランドを高め、シビックプライドの醸成を目指しています。

ウィンタースポーツ塾の開催

札幌市では、ウィンタースポーツの裾野拡大を図るため、平成28年度から開催しています。より多くの子どもたちがウィンタースポーツを体験できるよう、冬季以外にも体験会を行っています。



体験競技

- ・ エントリーコース（6種目：クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート）
- ・ In Summer（4種目：スケート（ショートトラック）、アイスホッケー、カーリング、フィギュアスケート）

トップスポーツやアスリートと連携

札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム（北海道日本ハムファイターズ・北海道コンサドーレ札幌・レバンガ北海道・エスポラーダ北海道）と設立した「**プロスポネットSAPPORO**」と連携・協力して共通目標である「スポーツを通じたまちづくり」を進めています。



©HOKKAIDO NIPPON-HAM FIGHTERS



©CONSADOLE



©LEVANGA HOKKAIDO



©ESPOLADA

「スポーツの力でまちを元気に！ プロスポーツのあるまちSAPPORO」

協力内容

- スポーツの裾野の拡大、観る文化の醸成
- スポーツ振興、アマチュアスポーツの支援
- シティプロモートやスポーツツーリズムの推進

スポーツを通じた共生社会の実現

札幌市では、障がい者スポーツの振興のため「**パラスポーツクラブ-SAPPORO**」を設立して、子どもたちが初心者でも気軽にスポーツを楽しむことができるよう取り組んでいます。

スポーツイベントに参加
するようになりました

スポーツクラブの存在
(仕組み)
適切なコーチング
(人材)

子ども・保護者の
安心・信頼

スポーツ活動の場の創出
コミュニティの形成

保護者同士の
つながりが生まれました

スポーツを通じた経済・地域活性化

「さっぽろグローバルスポーツコミッション」によるスポーツツーリズムの推進・海外代表合宿の誘致に取り組んでいます。

「さっぽろグローバルスポーツコミッション」とは

北海道の豊富なスポーツ資源を活用することにより国際的なスポーツイベントの誘致・開催支援活動を推進し、札幌・北海道の魅力を発信するとともに、市民・団体の多様な交流を支え、地域活性化と交流人口拡大に貢献することを目的に設立された非営利公的組織です。

活動の3本柱

国際大会・事前合宿・ スポーツイベント等の誘致

- ・スポーツ関連会議・EXPO等への出展
- ・合宿受入の調整、ビザ申請サポートなど

スポーツツーリズム の推進

- ・ウインタースポーツシティ札幌のプロモーション
- ・スポーツツーリズムに係る基礎調査の実施
- ・スノーリゾートセールス支援（道内連携）

スポーツボランティア 「スマイル・サポーターズ」

- ・札幌市内のスポーツ大会やイベント等に派遣

III部 スポーツの力で「世界」へつながる

札幌市は、世界が憧れるまちを目指し、国際大会の開催などを通じてウインタースポーツ拠点都市としてのブランドを高め、その魅力を発信し、世界につながることを目指します。





ラグビーワールドカップ2019™ 札幌開催



SAPP_RO

大会概要



公式マスコット「レンジャー」

開催期間

2019年9月20日～11月2日（44日間）

試合数

48試合（プール戦40試合・決勝トーナメント8試合）

※台風19号により3試合中止

開催都市数

12都市

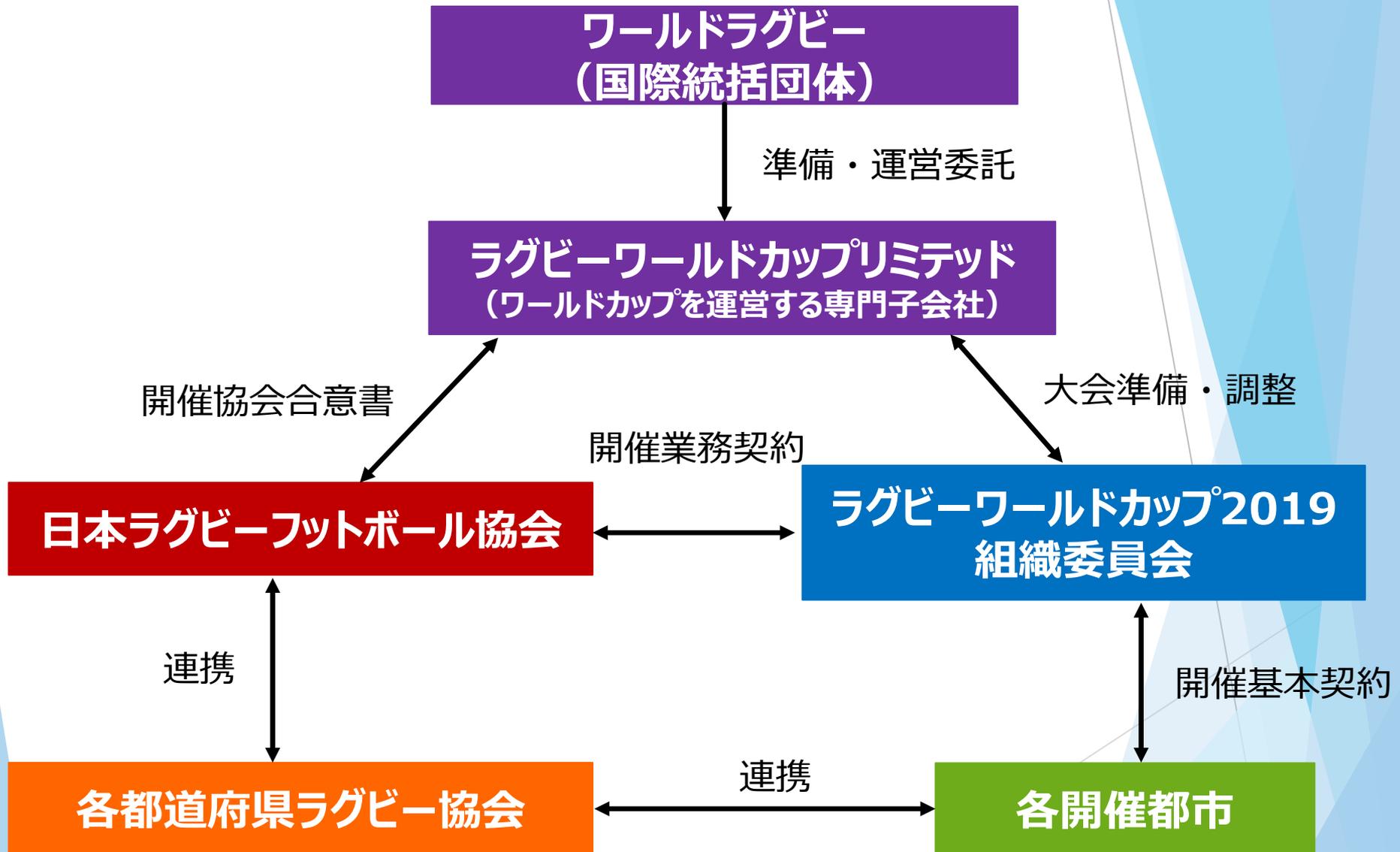
札幌市、岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市
東京都、神奈川県・横浜市、静岡県
愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市
福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県

※札幌市の会場は、札幌ドーム

特徴

1. **アジアで初**のワールドカップ
2. ラグビー**伝統国以外で初**のワールドカップ
3. ラグビー7人制がオリンピック種目に採用されてから最初の大会

大会関係図



札幌開催概要

2019年9月21日（土）13：45～

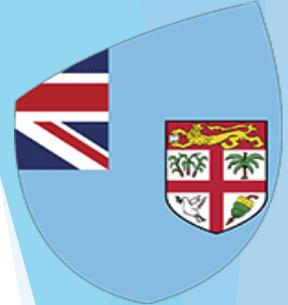


オーストラリア 39 V 21 フィジー

（世界ランキング6位）

（同9位）

観客動員数：36,482人

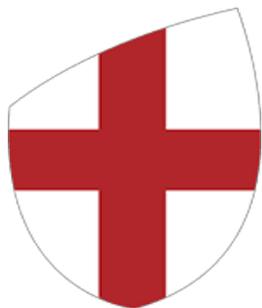


※世界ランキングは、大会時の順位



札幌開催概要

2019年9月22日（日）19：15～



イングランド 35 V 3 トンガ
(世界ランキング3位) (同15位)



観客動員数：35,923人

※世界ランキングは、大会時の順位



札幌市の主な役割（業務）

※ごく一部です。

ファンゾーン開催

- 大通公園などに無料でパブリックビューイング（PV）観戦ができる空間を創出（延べ8万人以上来場）



会場整備・キャンプ地対応

- 札幌ドームをラグビー仕様に整備、月寒ラグビー場等をワールドカップ仕様に改修
- キャンプ地滞在中のチーム対応



おもてなし

- 市内中心部に「街中コンシェルジュ」（ボランティア）を配置
- 日本文化体験コーナーの設置



都市装飾

- 街灯バナーや壁面広告等を各所に掲出し盛り上げを演出



機運醸成

- 大会前の日本代表戦のPVやラグビーイベントを多数開催



観客サービス

- 市内中心部と札幌ドームを結ぶ特別シャトルバスを運行
- 市内中心部にインフォメーションブースを設置



開催の効果

札幌市内経済波及効果47億円 ※RWC組織委員会による大会前試算

欧州・豪州の集客増

都市の魅力、札幌ドームの高次機能性を世界に発信

大規模国際大会の運営ノウハウの蓄積

新たなスポーツ観戦文化の定着

スポーツボランティアの参加・活躍の機会

IV部 冬季オリンピック・パラリンピック招致へ

札幌市は、冬季オリンピック・パラリンピックの招致を通じて、ウィンタースポーツ都市としての存在感を高め、アジア、そして世界に誇る拠点都市を目指して取り組んでいくとともに、大会を契機に、国や地域、文化、言葉、そして障がいの有無などの違いを超えて、誰もがこの札幌・北海道で集い、互いを尊重し合える共生社会を実現し、真の国際都市として、世界に名を馳せられるよう、取り組んでいます。



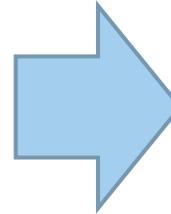
目指せ2030!

感動をふたたび、そして未来へ。

札幌の魅力を世界に発信

1972年札幌オリンピックは、

- アジア初となる冬季オリンピックを開催した都市
- 当時の雪まつりの様子が海外のテレビ番組で放送



オリンピック後も国内外から多くの観光客が訪れるきっかけに



▲ 写真/公式報告書より

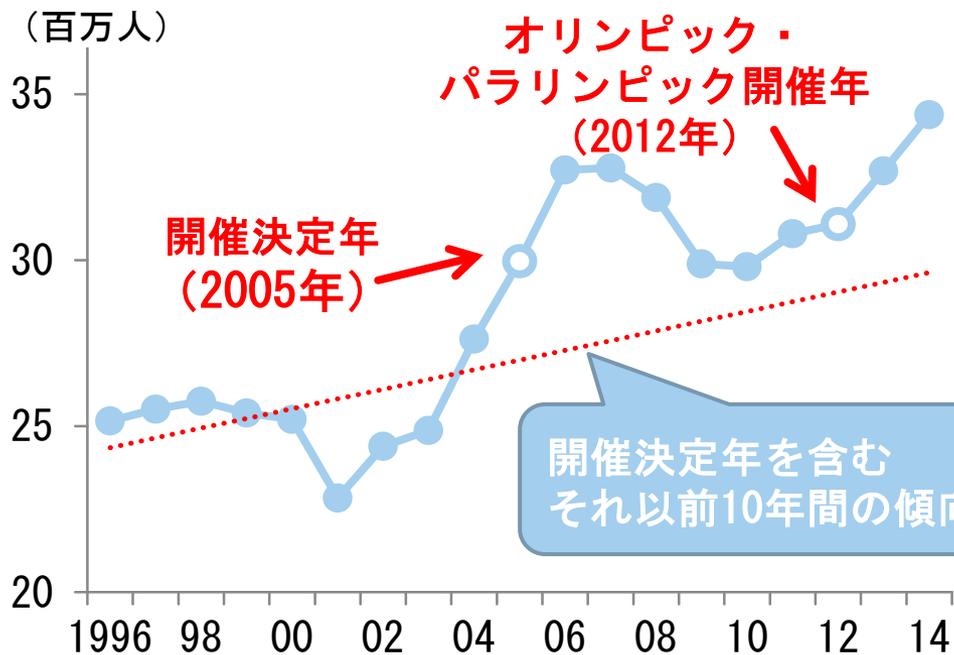


▲ 雪まつりの様子

北海道・札幌が目指す まちづくりを加速

インバウンドの拡大に向け、札幌の魅力を世界に発信

■ ロンドンオリンピック・パラリンピックと英国への訪問外国人数の例



出典：観光庁ホームページ・みずほ総合研究所)

Point

オリンピック・パラリンピック開催決定後は、開催国への訪問外国人数が長期間にわたって増加する傾向があります。

北海道・札幌が目指す まちづくりを加速

多様性を尊重する心を育み
共生社会の実現を目指す

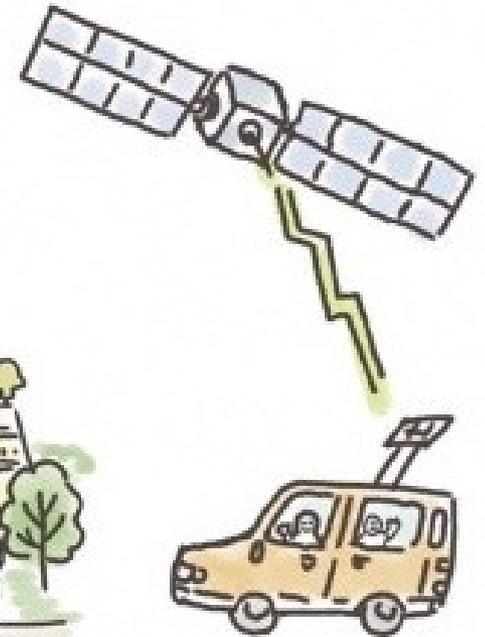


ウォーカブルシティによる
市民の健康増進へ

水素エネルギーを活用した
車両は、東京2020の選手村
やマラソンにおいても導入



ハード・ソフト両面から
都市のリニューアルを



これまでの経緯

| 日付 | 内容 |
|------------|---|
| 2014.11.27 | 札幌市長が2026年冬季オリンピック・パラリンピック大会の開催都市に立候補することを表明 |
| 2015.10.1 | 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会設立 |
| 2017.11.22 | JOCとともに2026年大会の対話ステージへ参加表明 |
| 2018.9.6 | 北海道胆振東部地震発生 |
| 9.17 | IOC・JOC・札幌市の3者会談により、2026年大会招致活動の終了と、2030年大会招致に向けた対話の継続を合意 |
| 2020.1.29 | JOCが2030年大会の国内立候補地として札幌市を決定 |

札幌2030大会の概要

■ オリンピック

| | |
|------|---------------------------------|
| 開催期間 | 2030年2月 8日（金） ～2030年2月24日（日） |
| 開催日数 | 17日間 |
| 競技数 | 7競技（102種目） ※新種目の提案を検討します |

■ パラリンピック

| | |
|------|---------------------------------|
| 開催期間 | 2030年3月 8日（金） ～2030年3月17日（日） |
| 開催日数 | 10日間 |
| 競技数 | 6競技（80種目） |

- 多くの競技会場が札幌市中心部から10km以内・移動時間30分以内
- 1972年オリンピックでも利用された既存の施設の改修・建替などが中心（競技会場の新設は「ゼロ」）

[参考] 夏季・冬季の規模の違い

| | 競技・種目数 | 参加国・地域数 | 選手数 |
|----------|-----------|---------|----------|
| 夏季オリンピック | 33競技339種目 | 206 | 約11,000人 |
| 冬季オリンピック | 7競技102種目 | 92 | 約3,000人 |

開催経費の考え方

| 札幌2030 大会経費 | |
|---|--|
| 総額 約3,100億円～3,700億円 | 札幌市の負担額はどんな費用？ |
| 組織委員会予算：2,300億円 | <ul style="list-style-type: none"> • オリンピック・パラリンピックの有無に関わらず行う老朽化した施設の建替 • 競技会場をオリンピック・パラリンピックの競技に利用できるよう改修 |
| 施設整備費：800～1,400億円 うち、 <u>札幌市負担額：400～600億円</u> | |

■ 組織委員会予算

- オリンピック・パラリンピックの開催にかかる、競技の運営費などの一時的な費用は国内スポンサー収入などで全額を賄う

■ 施設整備費

- 既存施設を最大限活用し、大会開催に向けた新たな競技会場はつukらない

市民と対話しながら計画づくり

札幌市では、2019年9月から10月にかけて、札幌2030大会招致に対する市民の期待や懸念を把握するため、子どもワークショップ、大規模市民ワークショップ、区民ミーティングなどを実施しました。

市民の期待の声や利点を最大限に活かしながら、懸念の声を課題を解決していくための効果的な施策を検討し、札幌2030大会招致に向けた計画づくりを進めています。





2030年

2度目のオリンピック、
そして、初のパラリンピックを
この札幌・北海道で

皆さんと一緒に「スポーツの力」で
札幌のまちづくりができることを
楽しみにしています。